



2003年3月期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2003年5月16日

お問合せ先:

財務・IR広報部 マネジャー (IR広報担当)

柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



増収増益、42億円の営業利益増は加工食品が牽引

2003年3月期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	02/3	03/3(E)	03/3	03/3対02/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,581	5,790	5,634	52	0.9%
営業利益	140	179	182	42	30.4%
経常利益	116	153	162	45	39.4%
当期純利益	40	60	52	11	28.4%

1. 売上高 03/3(E)・・・2003年3月期見込・・・は2002年11月8日に発表したもの

食品や食品卸売の伸長が、低温物流の保管型取扱減による減収をカバーして増収に

2. 営業利益

食品のうち加工食品は前年度に開始した単品別収益管理による販売促進費と物流費の効率使用が実を結ぶ、アセロラの増収効果や02/3に高騰した冷凍食品加工原料の調達価格低下もあり増益
低温物流は保管型が輸入品減少などの影響を受け、在庫・在庫が減少して減益に

3. 経常利益

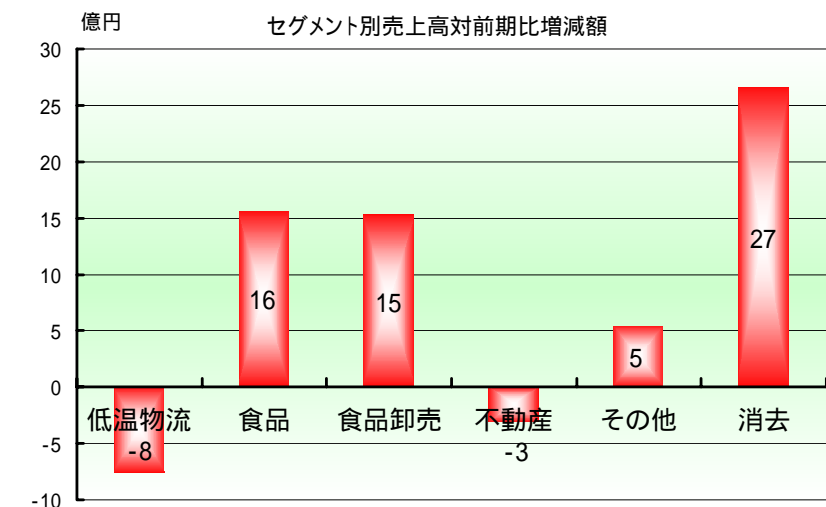
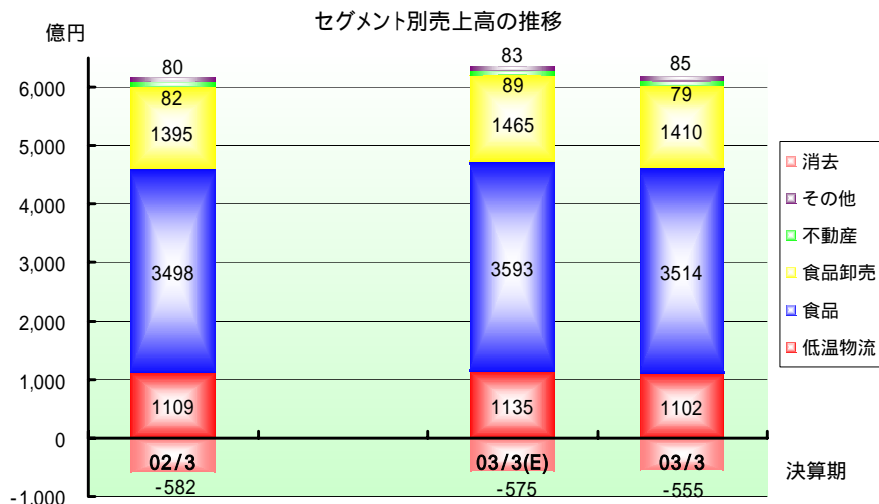
金融収支が02/3比6億円改善、持分法投資利益は2億円減少したが営業外損益は02/3比3億円のプラスに、過去最高益を更新

4. 当期純利益

投資有価証券の売却損・評価損58億円が発生、一方02/3に14億円発生した生産工場移転損失などが当期にはなく、特別損益は前期比4億円マイナスで当期純利益は増益に

食品のうち畜産品と食品卸売が増収の原動力に

セグメント別売上高と対前期比増減の要因



1. 低温物流

保管型は畜産物のBSE(狂牛病)や偽装表示問題と冷凍野菜の残留農薬問題などによる輸入量減少が影響、また大口荷主の自社倉庫完成による在庫減もあり減収に、流通型や欧州は順調に取扱いを伸長させたが補いきれず

2. 食品

加工食品は中国産などの冷凍野菜が取扱減となり減収だが、畜産品が国内チキンを中心に扱いを伸ばし、全体では増収

3. 食品卸売

ユキワが取引先大手流通の店舗数増加や業務用の得意先拡大により増収

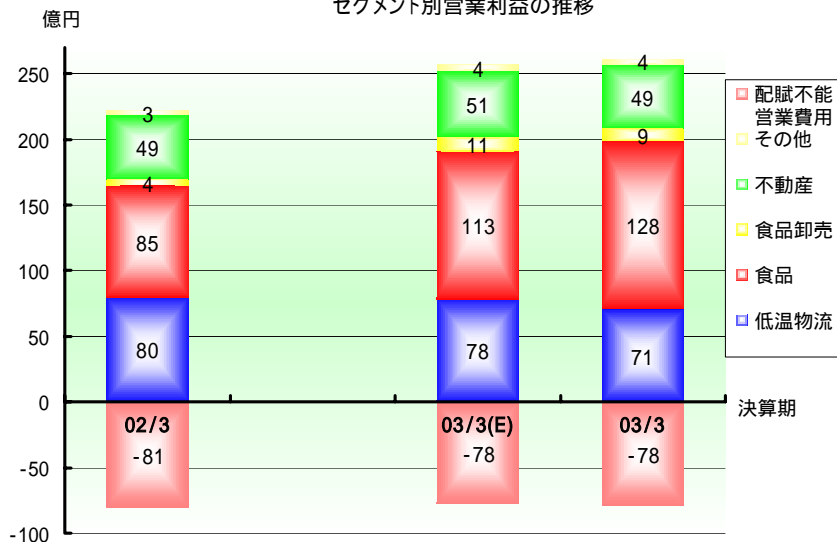
4. 不動産

大阪市の天満橋ビルの賃貸を開始、東京都中央区の土地賃貸も開始し安定収益へ貢献

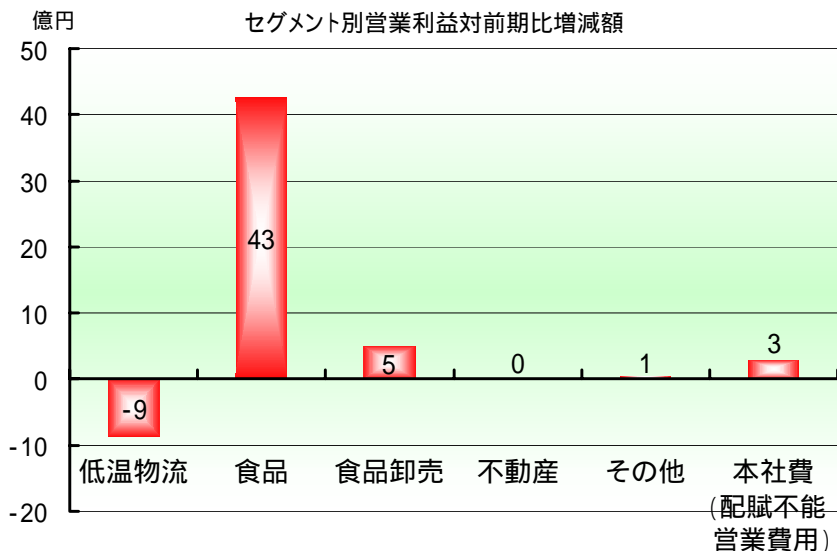
加工食品の採算改善が進み大幅増益に

セグメント別営業利益と対前期比増減の要因

セグメント別営業利益の推移



セグメント別営業利益対前期比増減額



1. 低温物流

欧州が引き続き好調、流通型も既存拠点が好調で新規2拠点の初期費用を吸収し増益だが、保管型が入庫・在庫ともに減少し減益に

2. 食品

加工食品は、販売促進費や物流費の効率使用と原価の低減が進み採算改善、アセロラの増収効果もあって増益、畜産品も国内チキンの好調で増益、下期にえびの市況が悪化した水産品が減益だが全体では43億円の増益に

3. 食品卸売

増収効果のほか、物流費や営業費の効率化も進み増益

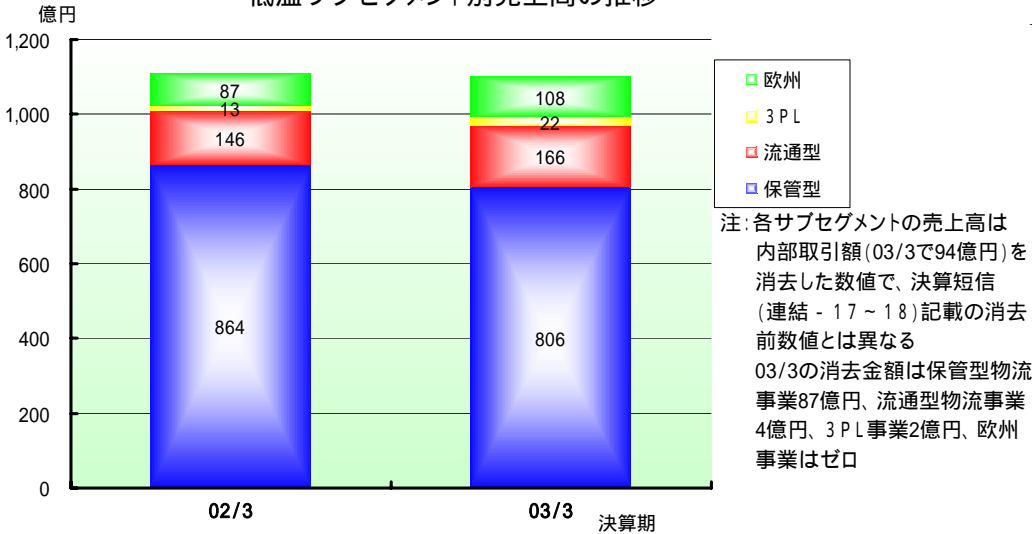
4. 不動産

通期の利益は横ばい、天満橋ビルの稼働開始などにより賃貸事業の利益貢献度が高まり、より安定した事業基盤に

低温物流事業は保管型の事業環境悪化により減益

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



1. 保管型

大口荷主の自社倉庫への貨物移動後の後荷対策遅れ、畜産物のBSE(狂牛病)や偽装表示問題と冷凍野菜の残留農薬問題などによる主力貨物の輸入量減少、さらに昨秋には米国西海岸の港湾ストでチルドビーフの輸入にブレーキがかかり在庫水準が低下、入庫・在庫とも02/3を下回る、在庫の大都市への集中による地方冷蔵倉庫の空洞化も重なり減益に
保管賃単価は横ばいが続く

2. 流通型

01/7稼働の仙台センターが通期で貢献、静岡と四国のセンターも新規稼働し売上が拡大、既存事業所の貨物通過量も増加して採算も改善

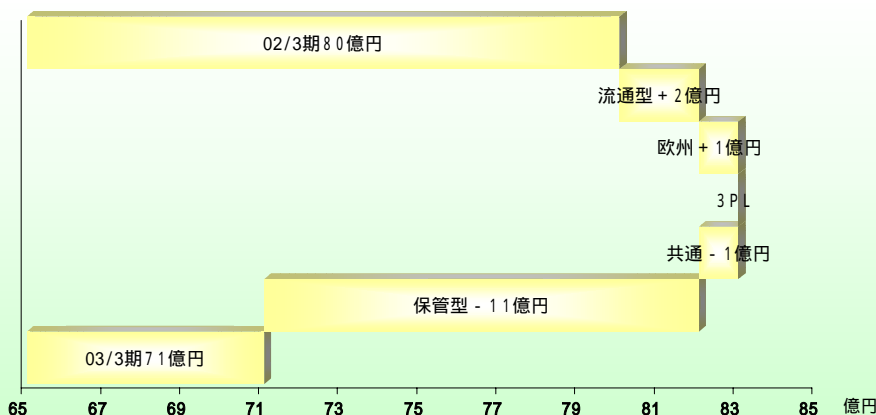
3. 3PL

中部地区のチルド洋菓子共同配送など受託案件が増加

4. 欧州

保管と輸入通関機能を組み合わせることで集荷活動を積極化、ブラジル産チキンなど新規商材も獲得し増収増益

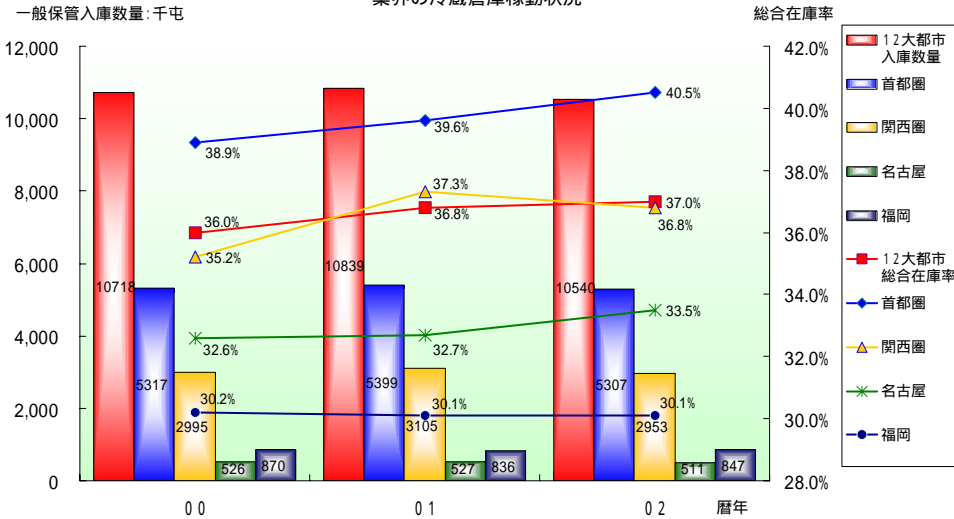
低温物流事業営業利益の対前期比増減要因



輸入貨物の搬入減で業界も当社も在庫量が減少

冷蔵倉庫の稼働状況

業界の冷蔵倉庫稼働状況



1. 業界の状況

入庫数量は首都圏と関西圏を中心に減少、総合在庫率はばらつきがあるが概ね横ばい

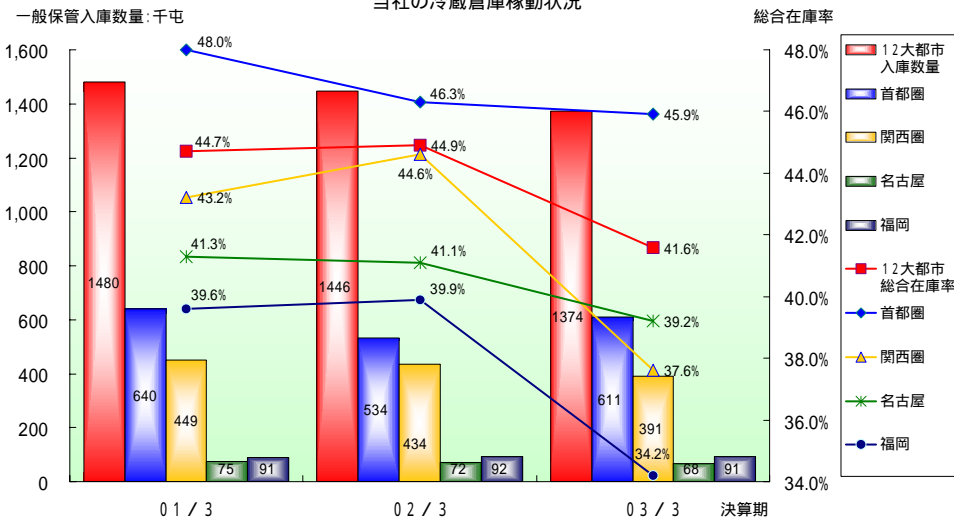
2. 当社の状況

畜産物など輸入貨物の搬入減少が入庫量と総合在庫率の両方にマイナスの影響、関西圏は大口荷主の撤退も重なり落ち込みが他の地区より大きい

3. 業界の設備能力

引き続き横ばい、大手業者の設備能力は変動が少ない

当社の冷蔵倉庫稼働状況



冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2003年1月1日現在)

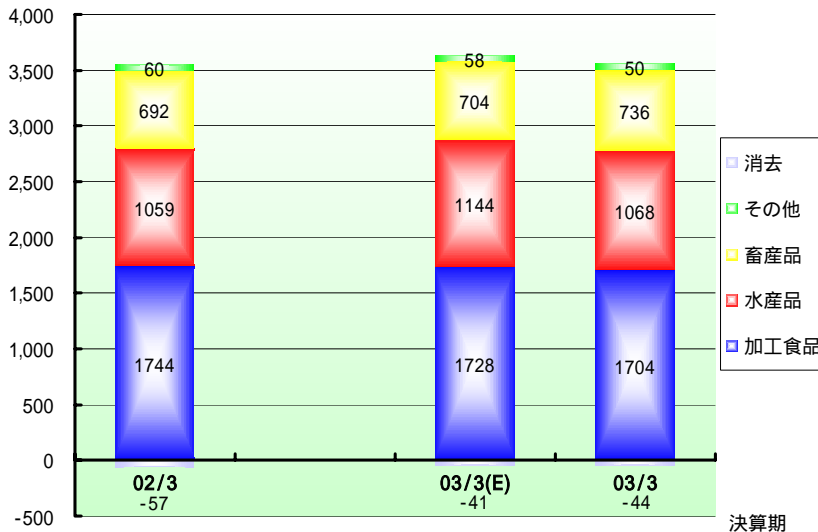
社名・グループ名	拠点数	能力 万t	02/1比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	103	138	1	13%	全国
マルハグループ	64	72	0	7%	全国
横浜冷凍	34	53	-1	5%	全国
東洋水産グループ	23	39	-1	4%	全国
日本水産グループ	25	35	0	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
兵食	7	11	3	1%	関西
ヒューテックノリン	8	11	2	1%	全国
キューソー流通システム	20	10	0	1%	全国
中央冷凍	8	9	0	1%	関東
川西倉庫	6	9	0	1%	関東、関西
東京豊海冷蔵	5	9	0	1%	関東
山手冷蔵	6	8	2	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	8	0	1%	関東、関西、九州
二葉	4	8	-1	1%	関東
その他	1,406	631	0	58%	
合計	1,739	1,091	-4	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

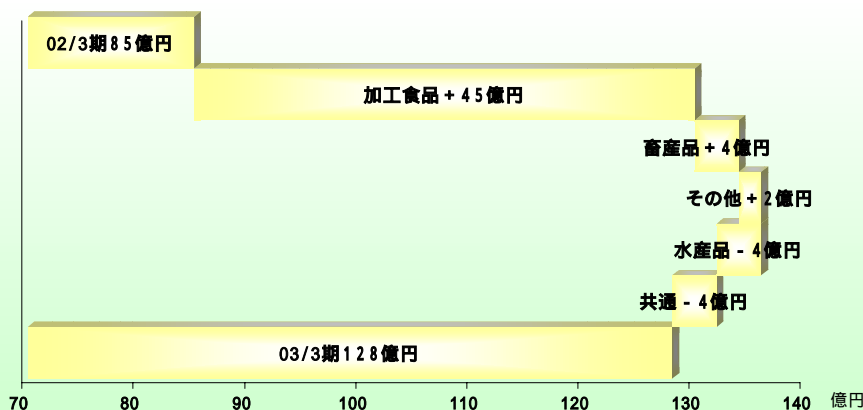
加工食品は採算改善し畜産品は国内チキンで増収に

食品事業の対前期比増減の要因

食品サブセグメント別売上高の推移



食品事業営業利益の対前期比増減要因



1.加工食品

調理冷凍食品は販売促進費の抑制で市販用が減収、一方業務用は増収を確保、残留農薬問題は中国産ほうれん草の取扱自粛にとどまらず冷凍野菜全般が取扱減

販売促進費の効率使用と物流費削減が採算改善に寄与、前期に高騰したチキン原料価格が沈静化したことも採算改善の要因に

アセロラは3年間継続してきたブランディング活動が功を奏し、健康価値が多くのマスコミに取り上げられ売上を大きく増やす

2.水産品

たこやさけなどの取扱を伸ばして売上高は1%増収だが、主力のえびは下期に市況が低迷、営業利益は02/3比減益に

3.畜産品

02/3比6%増収、偽装表示問題で国産品への需要シフトが進み、中心商材の国内チキンが好調な売上

4.その他

「てんぐ」は米国テロ事件で観光客向け販売が不振も、工場稼働の安定化で利益が回復

調理冷食は惣菜ルートを中心に業務用が増収

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

02/3比4%の減収、調理冷食は市販用・業務用合わせて2%減収、残留農薬問題で中国産ほうれん草が取扱自粛に、影響は冷凍野菜全般に及び調理冷食以外の減収幅が拡大

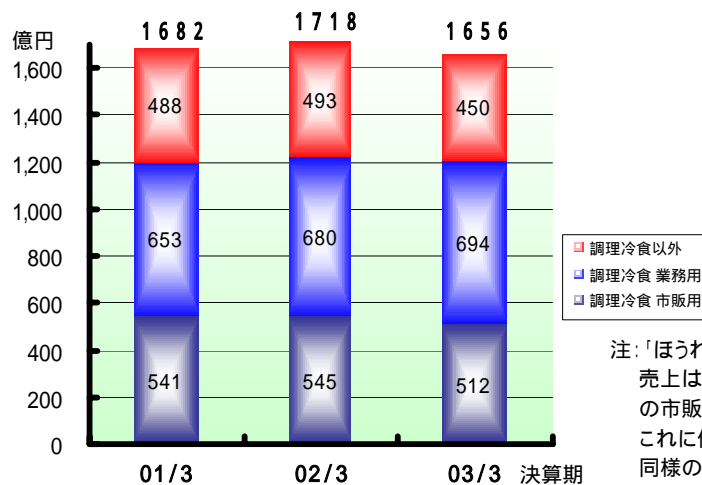
2. 調理冷食

市販用: 販売促進費の絞り込みが影響し02/3比6%減収、一方で効率的な使用による採算改善が進む

業務用: 02/3比2%伸長、ユーザーの業態により異なるニーズにそれぞれ応える商品戦略が売上増の原動力、マーケットが全般的に伸び悩む中で比較的堅調な惣菜ルートに向けた「特撰Deliクリームコロッケ」や「本和風鶏唐揚」などが好調に推移

カテゴリー別に見ると業務用商品が伸びたチキン加工品やコロッケ類が売上を増加させたが、米飯類はマーケットサイズの縮小に加え販売促進費の効率使用も影響して減収に

冷凍食品売上高の推移



注: 「ほうれん草のバター炒め」などの調理野菜類の売上は、03/3に『調理冷食以外』から『調理冷食』の市販用・業務用へと分類変更されている
これに伴い、上記グラフの01/3と02/3の数値は、同様の分類を行ったものとして調整している

資産圧縮で有利子負債削減目標を1年前倒しで達成

03 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位:億円(未満切り捨て)

【主な要因】

科目	02/3	03/3	増減
〔資産の部〕			
流動資産	1,278	1,165	-113
固定資産	2,254	2,142	-112
資産の部合計	3,533	3,307	-226
〔負債・資本の部〕			
流動負債	1,646	1,194	-452
固定負債	1,000	1,195	194
負債の部合計	2,647	2,389	-258
少数株主持分	10	11	1
資本の部	876	906	30
(有利子負債)	1,674	1,453	-220
科目	02/3	03/3	増減
(設備投資額)	90	76	-13
(減価償却実施額)	135	127	-8

売掛金を65億円、棚卸資産を35億円それぞれ圧縮

設備投資と減価償却費の差額による51億円減のほか、投資有価証券が売却と評価減で43億円の減少

流動負債は支払手形と買掛金で50億円減少、社債250億円償還と短期借入金245億円の返済実施、一方200億円の社債発行などで固定負債が増加、有利子負債は固定負債の構成比を上げて財務安全性比率を全般に改善

有利子負債は営業増益や運転資金の圧縮で削減が進み、04 / 3の中計目標1,450億円を1年早く達成、最終目標をさらに100億円圧縮した1,350億円に

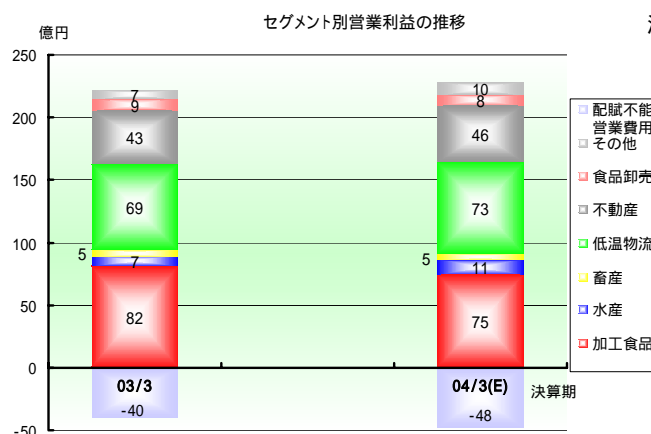
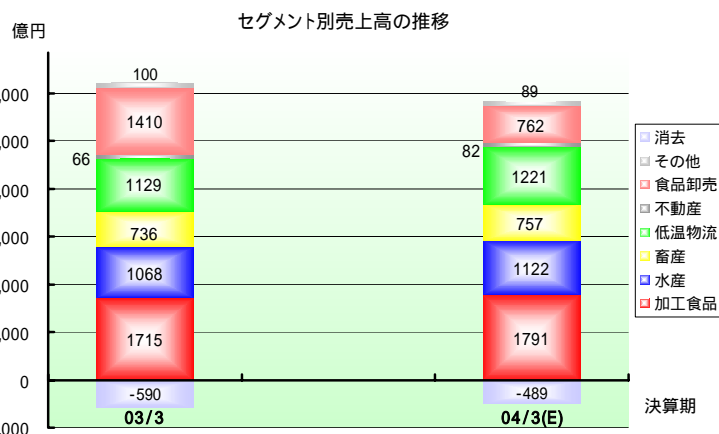
03 / 3の設備投資の主なもの
天満橋ビル(大阪市)新設

欧州の冷蔵倉庫増設...一部継続中 8

事業施策が着実に進捗し04 / 3は実質増収増益

2004年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	03/3	04/3 修正中計	04/3(E)	04/3(E)対03/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,634	5,480	5,335	299	5.3%
営業利益	182	185	180	2	1.5%
経常利益	162	170	165	1	1.3%
当期純利益	52	83	80	27	53.4%



注: 左グラフの各セグメント売上高は04 / 3からの子会社のセグメント変更を03 / 3に遡って表示しており、このため03 / 3の数値は2・4・6ページで表示しているセグメント売上高とは異なる。セグメントが変更になる子会社は下記の通り:

Nichirei U.S.A.: 「食品(その他)」 「加工食品」
 東洋工機: 「その他」 「低温物流」
 日冷商事: 「不動産」 「その他」
 Tengu Company: 「食品(その他)」 「その他」
 ニチレイファスト: 「全社」 「その他」
 ニチレイ・アプリ: 「全社」 「その他」

また、セグメント変更と同時に従来は配賦不能営業費用としていた費用の一部を各セグメントに配賦しており、左グラフの03 / 3各セグメント営業利益は新たな配賦方法を適用したものである。

- ユキワ(食品卸売)は(株)リョーショクフードサービスとの合併により下半期から連結除外となるが、その影響額、売上高603億円、営業利益8億円を考慮すると04 / 3は実質的に増収増益の見込み
- 04 / 3から投下するブランド育成費用16億円は加工食品で10億円、配賦不能営業費用で6億円の支出増となる、加工食品は減益だが、製造コスト低減や新カテゴリーへの集中などが着実に進捗しブランド費用増の一部を吸収する
- 低温物流は保管型の悪化に歯止めを掛け、流通型・3PLと海外で拡大と採算の改善を進める



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従い、これら業績見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- 偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。